

特許協力条約



PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）

〔PCT36 条及び PCT 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 SCPCT-84	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/008024	国際出願日 (日.月.年) 09.06.2004	優先日 (日.月.年) 19.08.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ H01B5/00, C09J9/02, H01B1/22, H01R11/01		
出願人 (氏名又は名称) ソニーケミカル株式会社		

<p>1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)</p> <p><input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第 802 号参照)</p>	
<p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 PCT35 条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見</p>	

国際予備審査の請求書を受理した日 04.04.2005	国際予備審査報告を作成した日 01.09.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 小川 進	4 X 8414
電話番号 03-3581-1101 内線 3477		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1～7	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 _____	有
	請求の範囲 1～7	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1～7	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 11-241054 A(ソニーケミカル株式会社)1999.09.07, 全文, 【図1】～
【図7】 & US 5965064 A & EP 0996321 A2

文献2: JP 59-189103 A(日本触媒化学工業株式会社)1984.10.26, 特許請求の範囲

文献3: DE 10016041 A1(Stockhausen GmbH & Co.KG)2001.10.04,

Patentanspruche, [0018] & WO 01/74913 A1 & JP 2003-529647 A

文献4: JP 8-325543 A(綜研化学株式会社)1996.12.10, 【0042】～【0044】

文献5: JP 9-30112 A(三菱製紙株式会社)1997.02.04, 特許請求の範囲

請求の範囲1, 5記載の発明は、国際調査報告で引用した文献1～3により、進歩性を有しない。文献1には、導電粒子の表面がカルボキシル基を有する絶縁性樹脂からなる絶縁性樹脂層で被覆されてなる絶縁被覆導電粒子及びその製造方法において、その絶縁性樹脂層として、好ましくはアクリル酸・スチレン共重合体、特に好ましくは架橋されているアクリル酸・スチレン共重合体を用いるということが開示されている。そして、文献2～3が例示できるように、カルボキシル基を有する樹脂を多官能アジリジン化合物で表面架橋するということは、周知の技術的事項であるから、文献1に開示されている、絶縁被覆導電粒子及びその製造方法において、その絶縁性樹脂層として、まず、アクリル酸・スチレン共重合体を用い、その絶縁性樹脂層の表面を多官能アジリジン化合物で表面架橋することは、当業者にとって容易である。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2. 欄の続き

請求の範囲 2～4 記載の発明は、国際調査報告で引用した文献 1～5 により、進歩性を有しない。文献 1 に開示されている、絶導電粒子の表面がアクリル酸・スチレン共重合体からなる絶縁性樹脂層で被覆されてなる絶縁被覆導電粒子に、文献 2～3 が例示できる、カルボキシ基を有する樹脂を多官能アジリジン化合物で表面架橋するという、周知の技術的事項を適用するにあたって、その多官能アジリジン化合物として、文献 4～5 に示されているような、トリメチロールプロパントリ-β-アジリジニルプロピオネート、テトラメチロールメタントリ-β-アジリジニルプロピオネート又は N, N-ヘキサメチレン-1, 6-ビス-1-アジリジンカルボキシアミドを用いることも、当業者にとって容易である。

請求の範囲 6～7 記載の発明は、国際調査報告で引用した文献 1～5 により、進歩性を有しない。文献 1 には、絶縁被覆導電粒子がエポキシ樹脂を含有している絶縁性接着剤に分散されてなる、異方性導電接着剤も示されている。